

12/03  
2021

# スタッフ座談会

劇場打ち合わせを夕方控えたこの日、カンパニースタッフ全員でこれまでの学び・本公演での取り組みなどを話し合いました。4年間の集大成となる舞台「結ぶ、とく」に込められた一人ひとりの熱い思いを感じとっていただければ幸いです。

聞き手：大迫美乃莉（制作）/写真：大場結衣（制作）

## Q1. 卒業制作で日舞の履修を決めたきっかけは？

鹿田（照明）：私は2年の総実（総合実習）では演劇を履修してただけで、演劇とは違う明かりの作り方と、洋舞とか音モノの作り方のいいとこ取りをしているのが日舞だと思って。

中野（照明）：私は元々、地元の伊勢崎明仙の着物が好きで日舞に興味があった！あと、1年生の時に観た卒日（卒業制作日舞）で日舞独特の明かりの綺麗さに惹かれたからかな。

— 演劇・洋舞・日舞でどんな風に違うのか聞きたい！

鹿田（照明）：じゃあ私が（笑）まず演劇は人が話す物語に沿って時系列や場所の情報を表現することに重きを置く。洋舞は人と人との関係性や心情を表現するから割と抽象的な明かりになる。日舞には台本があるから物語も時系列もあって、でも心情も表現するし…なんて言ったら良いんだろう？（笑）

森口（照明）：洋舞は体の曲線美とか筋肉を魅せるよね。顔が暗くて見えなくても良いけど、日舞は人や装置、衣裳を綺麗に見せ

る明かりを大事にするからそこが大きく違うかも。

— 違いがわかると舞台もより楽しめそう！美術さんは？

大島（美術）：私は日舞をやってみてみたい気持ちがずっとあったの、かりんちゃん（船橋）の作る美術を立てたいって思った。

一同：おお～！！素敵！！（拍手）

熊野（美術）：私は今まで総実も外小屋でもずっと演劇だったから、最後に新しく挑戦しても良いかなって。

— 日舞を履修してみて、何か思ったことはある？

熊野（美術）：演劇では美術は背景になるんだけど、日舞ではいかに立方を魅せるかを大事にした美術になるからそこが面白い！

— 照明と同じく見せ方が変わるのね！音響さんはどう？

落合（音響）：私は、創舞者の願いを叶えてあげるっていう姿勢じゃなくて、要望を聞いて現実性と兼ね合いを相談しながら進めるこのカンパニーのプロセスが良いなって履修を決めたよ。

## Q2. 今までの総実と卒制で、取り組み方の違いや変化はあった？

船橋（美術）：今回は先生とのやり取りよりも立方（たちかた；踊り手）と話し合うことが多かったな。だからこそ立方の雰囲気や美術に取り入れようと思った。歌舞伎だとか家元ごとの家紋が衣裳に入っていたりするのを知ってたから、3年間で見てきた2人（の立方）のイメージや雰囲気を色味とかに盛り込んでみた！

一同：いいね～！最高じゃん！

— 音響の2人はどう？

落合（音響）：総実では洋舞、外現場だと演劇とかミュージカルをやってきたんだけど。洋舞はピシッと、日舞はまるやかな動きに合わせて音を入れる。そのオペ（オペレーション）の違いを勉強中。難しいけど、ゆみか（森；日舞コース所属）が踊れる人だから「ここはもっとこう」、「今の姿！」って教えてくれるからすごくやりやすい。

森（音響）：（日舞は）間合いを読むことも大事になってくるし、立方と照明・音響のオペレーターが息を合わせなきゃいけない。

— 日舞特有の難しさだね。舞監さんは？

小玉（舞監）：「星屑」（IC）の時、美術は月を、照明は星を出したかったんだけど、劇場入りしてからプランが合致してないことに気づいて「舞監の責任だ…」とコミュニケーション不足を反省したのね。今回はこれまでの学びと反省点を活かしていると思う。

— 素晴らしい！ゆいちゃん（大場）はポスターとかに興味があるじゃない？フライヤー作る上で心掛けてきたことはある？

小玉（舞監）：この代から、例年の日舞のフライヤーとガラッと雰囲気が変わったよね。日舞をポップに（表現）してもいいとかさ。

一同：（過去のフライヤーを見ながら）確かに～！

大場（制作）：（学生から嫌厭されないように）日舞感を全面に出

しすぎないことを大事にしてきたかな。演劇のように演出家がないから、自分たちで考えて決めなきゃいけないけど、そこが大変でもあり、楽しいところ。

— 日舞で制作をやる醍醐味だよな。衣裳の2人はどう？

滝（衣裳）：私が良いと思う衣裳って、演劇だとキャラクター性がよく現れているものだけど、日舞ではいかに立方を綺麗に見せるかとか、動きやすくなるかとかが重要になる。今、演劇の時とは違う抽象的な衣裳を作れることがすごく楽しい！あと、立方・他セクションみんなで（衣裳布の見え方などを）検証する機会が

## Q3. 今回力を入れた点や、注目ポイントがあれば教えてください。

小玉（舞監）：まず、日本舞踊らしい額縁を作ったことかな。

— プロセ（プロセニウムアーチ；舞台を舞台幕などで額縁のように切りとった構造物）のアスペクト比を変えたってこと？

小玉（舞監）：そう、高さや袖幕を調整して横長の舞台を作った。あと幕開けはお客さんを（世界観に）引き込む一番大事なところだから、こだわりを持ってやっていきたいし、終わり方もお客さんの気持ちを大切にしたい。

— 見終わった後の余韻って大事だもんね。我々制作としては…？

大場（制作）：やっぱりフライヤーと当日パンフレットだね。

大迫（制作）：デザイナーさんに細かい希望をお伝えして、かなりこだわったね（笑）公演名の「結ぶ、とく」に込めた意味に準えて「ロゴは水引きにしよう」、「2人の髪型で何か表現できないかな」と色々話し合ったし。当パンには、卒業制作だからこそ、これまでの学びをお客様に伝えることを意識した。

— 音響の2人はどう？

森（音響）：ICから気にしているのは、日本舞踊らしさ。日舞は本来、地方（ちかた）さんが舞台上に座って歌うから（客席の）上から音が鳴るのは不思議なこと。音のエネルギーが伝わるように客席と舞台が繋がることを意識して音響プランしているかな。

船橋（美術）：美術は日本舞踊の演目をオマージュしたところがこだわりポイントかな。あとは、カンパニー内のプロセスが本番に出る気がする。みんな長く一緒にやってきているから、お互いの成長を感じられるのも良いなあって。チームワークにも注目してもらえたら良いかなあ。

鹿田（照明）：そうだね！照明のこだわりポイントは、やっぱり立方を綺麗に見せる明かり。創作日本舞踊だから古典の明かりとは違うけれど、日本舞踊の明かりがどんなものかを観に行ったりしたことが少しでも活かしていたら良いなって。

— 2人（鹿田・森口）は先日、基先生の公演を観に行った時も明かりについて話していたよね。

多いってことが初めてで嬉しい。

飛田（衣裳）：完成前からちょっとずつ共有して出来上がっていくのも面白いなって思う！

— 全体的にこのカンパニーはプロセス全共有って感じだよな。

森（音響）：やってみたい案を思いついた時も、「どうなるかわからないんだけど、これどうかな？一応（意見）聞かせて！」っていうのがお互いに許される。パトン（天井付近にある幕や照明などを吊るための棒）決まるのもめっちゃ早かった！（笑）

— すごい！普段からの密なコミュニケーションの賜物だね。

森口（照明）：観に行く前に（照明指導の）加瀬先生から古典日舞照明の授業を開いてもらえて！仕込み図を見せてもらいながら演目や日本舞踊の照明のセオリーとかを教えてもらったの。

— そういう機会があったのね、素敵！衣裳さんは？

飛田（衣裳）：なっちゃん（石田）が綺麗に見えるデザインと動きやすさの両立を重視したこと！

滝（衣裳）：やっぱり『Decision』最後の衣裳に注目してほしいかな。

飛田（衣裳）：もっと泡感を出せないか試行錯誤中です（笑）

— 本場に綺麗だからね。最後に何か言い残したことある人！

森（音響）：これは質問とは関係ないんだけど、みの（小玉）がさ、ずっと『ありがとう』と『ごめんなさい』はちゃんと言おうよって話してたことが根付いてるよね。

一同：確かに～！！

— それが我が卒日カンパニーの良い関係性の秘訣かもね。では、「ありがとう」「ごめんなさい」がちゃんと言える素敵な子たちの集まりということで！（笑）

飛田（衣裳）：幼稚園みたいに終わった（笑）

森（音響）：（笑）でも本当に大事だよな。

— 劇場打ち合わせも残りの日々も楽しみながら頑張って乗り越えていきましょう！



座談会の様子

